

神戸市立博物館 外部評価書(22年度)

使命 (要点)

- 多様な神戸文化の特徴と東西文化交流の態様を明らかにし、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。
- 優れた文化・芸術にふれあう機会を「提供」し、新たな調査・研究を「提案」し、その成果を「発信」する博物館となります。
- 市民・利用者が集い、神戸を愛し、誇りとする拠りどころが得られる博物館になります。
- 震災と復興のなかで得た知見を発信していきます。

活動目標

- 1 地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします
文化財を保存・継承していく博物館にします
- 2 すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします
- 3 芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします
- 4 すべての人々にやさしい博物館にします

活動指針

- 市民が誇れる博物館
- すべての人々に親しまれる博物館
- 地域の文化を支える博物館
- 情報発信をする博物館

※各活動目標に対する外部評価の平均スコアは委員評価(A~D)の平均による

A: 4点、 B: 3点、 C: 2点、 D: 1点で算出。

A : 3. 25点以上

B : 2. 50点以上 3. 25点未満

C : 1. 75点以上 2. 50点未満

D : 1. 75点未満

平成 22 年度の総評

自己点検評価による総評

平成 21 年度の自己点検評価では、活動目標ごとの評価がすべて B だったが、今年度においては大型海外展、自主企画展、常設展示ともに充実した内容を提供することができ、それが入館者数や来館者の高い満足度に結びついたことから、「すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします」の項目を A の評価とした。

博学連携については、例年通り計画以上の実績を積み上げることができた。また学習支援交流員の各種行事への積極的な参加、自主的な活動が進み、生涯学習の場として集える博物館に一步前進した。ただし調査研究活動やデータベースの公開、市民ニーズの把握では、組織的な取り組みや計画性に関し、十分な改善に至っていない点が反省される。

なお今年度は、収蔵庫の改修や新たな燻蒸装置の導入、トイレの増設・改修など、予算的な制約により実施できていなかった設備面の改善を図ることができた。

外部評価による総評

外部評価の結果は 4 段階評価で B, A, A, B, となり、21 年度と同じである。活動目標の「すぐれた芸術文化に出会える博物館にします」の評価は昨年度、外部評価 A に対し、自己評価では B だったが、今年度は A となっている。展覧会活動などに重点をおいて積極的に取り組んだ結果が来館者の満足度や入館者数などに成果としてあらわれているからであろう。更に魅力ある展覧会の開催で活性化が図られるよう努力されたい。その際、博物館協議会で指摘があったように、展覧会の開催や学校連携などに時間がさかれすぎて、「地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします。文化財を保存・継承していく博物館にします」の活動、とくに調査・研究などの活動との両立に苦慮していると思われるので、バランスがはかられるよう留意されたい。

「活動内容」のうち、「◎学校との連携」「◎他館との連携」については全員が A 評価であったことを記しておく。他の「活動内容」では、トイレの改修など設備の改善が一部はかられたが、「◎市民ニーズを把握し必要な改善を行います」が昨年度と同様に C 評価であり、常設展などの項目では昨年度と同様に質・量の充実と新鮮さがもめられるなどの指摘があった。各委員の意見をふまえ、活動の充実に努められたい。また評価が博物館活動のより効果的な改善につながるよう、評価方法や目標設定のあり方について、検討していく必要がある。

活動目標 1

地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします
文化財を保存・継承していく博物館にします

自己点検評価・・・B

調査研究への組織的取り組みは依然として十分ではなく、具体的計画と進捗確認をもって進める必要がある。資料収集および資料の保存・保全については、予算及び物理的な制約がある中で、対処的ではあるが改善のための努力が行われている。これらの調査成果や資料の情報公開は、従前どおりには行えているが、館蔵品データベース等現在HPによる公開に向けた作業を行っているものについて、より計画性をもって進捗を確認して進める必要がある。

外部評価・・・B

- 各活動内容にややバランスを欠く。より深化した活動が評価される分野と、やや活動に不足の分野とが見られる。
- 館内の裏側を以前テレビで見ましたが、なかなか大変だと思いました。難しい事はわかりませんが、発展を期待しています。
- 調査・研究活動は博物館の根幹にかかわります。学芸員が調査・研究に集中できる環境の整備が望まれます。
- 学芸員の調査・研究のための時間確保、および学芸員にふさわしい勤務形態の設定が必要であると思われる。
- 興味深い内容が多く大変ためになる。地域の歴史関係の展示について更に力を入れてもらいたい。(何度も足を運びたくなるような)
- 予算等制約がありますが、神戸らしさと神戸との関わりに力を入れていただきたい。
- 地域の図書館(区)に行く人は多い。地域の歴史情報→地域の図書館(区)→博物館というつながりがほしい。
- 「神戸で秀吉と出会う旅」はタイトルにひかれ、またアイデアもよく、きちんと史料の解説ができていてよかったと思う。こうした企画・取り組みをもっと増やしてほしい。
- 資料の保存管理に関して、問題は予算が少額であることであろう。
- 社会的資産としての文化財の保存については、ほぼ達成されているように思う。唯、震災による館蔵品の修復、保存については、3.11後の東日本地域の文化財の修復、保存に役立つような、防災・減災の視点をも含めたアドバイスや支援等もできるようにご尽力いただければと感じ、敢えて(限りなくAに近い)B評価とさせていただいた。

活動目標 2

すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします。

自己点検評価・・・A

トリノ・エジプト展で上質のエジプト美術、ボストン美術館所蔵浮世絵展では最高品質の黄金期の浮世絵、大英博物館・古代ギリシャ展ではギリシャ彫刻の名品と、バランスよく最上の芸術を展観したことは意義深い。また川西祐三郎、歌川貞秀、ギャラリーの展覧会は、館蔵品の魅力を来館者の視点で最大限引き出した。常設展示は制約の中で陳列替を行った。

外部評価・・・A

- 質の高い展覧会を維持してください。常設展示にはもう少し新鮮さが望まれます。
- 特別展の評価(入館者数)にバラつきが見られる。どういうわけかはよくわからないが、特別展に依拠した博物館のあり方も再検討を要する。
- 魅力的な特別展が増えている。神戸の街の活性化につなげてもらいたい。
- 浮世絵に関心が深いため非常に感動しました。場内の雰囲気もよく、すぐれた芸術・文化に出会える博物館は最高です。
- 市民にとって芸術と出合える貴重な場所として、各種バランスよく展示されたことは素晴らしいと思う。
- 特別展に関しては、バランスの取れた最上の芸術を身近に展示していただき、そのご努力に感謝申し上げたい。唯、国際的な文化都市としての神戸の歴史に関わる文化財については、神戸を訪れる観光客にも積極的に、先ず足を運んでいただけるよう、例えば、tripadvisor.jp など観光のスポットとしてもつながる工夫をされると広報につながると思われる。せっかくの神戸関連の館蔵文化財がもったいない。
- 22年度は特にエジプト、ギリシャという地中海周辺地域と、日本の美術とに重点を置いた企画が催され、美術館の“主張”が広く発信されたのではないかと思う。年間の企画がこうした一貫性をもつものになったのがよかったと評価できる。
- その後の研究成果もあり、常設展示施設の拡充の時期に来ていると思われる。これには場所の確保や予算措置が必要であるが、そのための予算要求もねばり強く行う必要がある。
- 展示で用いた様々なパネル等を小中高等学校で再利用できないか(販売も含めて)。開催時は混み合うので、説明文のパネルを大きくする、位置を工夫する。

活動目標 3

芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします

自己点検評価・・・B

学校連携については、計画どおり若しくはそれ以上の実績が得られている。今後も引き続き学校連携の強化につとめ、さらに指導主事のみならず学芸員が積極的に関与して質的向上を図って行く必要がある。アンケートを基本とした「市民ニーズの把握」については、これまでも課題とされていた結果分析とそれに基づく改善、活用が十分とは言えない。引き続きアンケート結果の分析とその活用方法の確立を行う必要がある。

外部評価・・・A

- 学校・地域との連携については博物館あげて取り組んでおられ、活動の大きな柱の一つになっており、当博物館の誇るべき実績である。
- 学校への出前授業は、子どもたちにとって興味深いすばらしい内容のものになっている。ますます新学習指導要領の趣旨・理念にもとづいた新しい内容のものになることを期待している。
- 学校との連携については、非常に努力されている事が解ります。
- 学芸員・指導主事の方々のたゆまぬ努力と献身を評価すべきもの。
- 以前出席しました折、学校連携について随分とご配慮されていると感じましたので、今後も大切な事項としてお願いします。
- 中学校では副読本「私たちの神戸」を社会科研究部が作成し、授業で使っています。学校や地域の活動と博物館の活動の情報を互いがより知る事が大切。
- 高等学校地歴・公民部会で会場をお借りし、主事の先生から丁寧な説明を頂いた。又、本校は出前授業でも大変お世話になっている。
- 学校連携やワークショップなどを無限に広げていくのは、学芸員やその他スタッフの負担が大きいのでは、と心配する。年度ごとに対象の学校や学年を決めるなど、対象校の数を減らしたり、積極的な参加者のみのワークショップ開催など、工夫も必要ではないだろうか。
- 今、家族(様々な形の)のあり方が考えられているので、生涯学習関係の情報誌にも取り上げることで、広報の充実、場の活用にもつながっていくのではないのでしょうか。
- 市民ニーズの把握の結果分析について膨大なアンケート調査の集計の困難については、実感としてよく理解できる。本末転倒と言われるが、より集計しやすい簡便法を活用して大まかなニーズをつかむことはできないのであろうか(もうすでに実施されているかもしれない)。

活動目標 4

すべての人々にやさしい博物館にします

自己点検評価・・・B

利用者にやさしい博物館を目指してトイレの改修等を進めているが、限られた予算の中で今後も不十分な点を明らかにし改善していく必要がある。

外部評価・・・A

- もともと博物館の建物が古いので、やや不案内な人には導線がわかりにくい。
- トイレ文化という言葉もありますように大切ですが、休憩の場として喫茶室も感じ良く美味しく頂けるのも見学者の楽しみようです。
- トイレの改修は大切なことである。博物館を訪れる人々の印象がお手洗いの清潔さで(不潔)で印象ががらっと変わることも多々ある。細かいことであるが、掃除が行き届いているかどうかも来館者の心情を左右する問題であると思われるので、今後も清掃を含めて、よろしく願いたい。
- 女性用トイレの増設と洋式への変更など、久しぶりに改善がみられた点は評価できる。展覧会開催中の会場、又は廊下で、休むことができるイスの増設など、入場者の中の高齢者への配慮など、まだまだ改善すべき点は多いと思う。
- 「高齢化時代にあってシニア世代が楽しみに足を運べるような工夫が必要と思います。
- 誰にでも喜ばれるサービスの提供におけるアンケート結果でスタッフの対応に不満を持っている入館者はごく少数との記載があるが(定量的なアンケート数が不明のため何とも言えない部分であるが)不満を持つ入館者がある中でのB評価はいかがなものかと考える。
- 施設の改良には予算の裏付が必要だが、それは困難であることが問題解決をはばまれていると思われます。
- 愛称があって、それが人々に浸透するくらいになればいいと思う。
- 高齢者、障害のある方にも見やすい展示も視野においていただければ。
- 案内等は親切、丁寧に行われている。